

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
社会医学	必修	講義 6	3	3	月～金	山岡吉生（環境・予防医学） 斉藤 功（公衆衛生・疫学）

【科目名の英文】 Social Medicine

【授業の概要】

- ・ 地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。
- ・ 国際社会における医療の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。
- ・ 臨床現場での意思決定において、入手可能な最善の医学知見を用い、適切な意思決定を行うための方法を身に付ける。
- ・ 保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。
- ・ 生活習慣（食生活を含む）とそのリスクについて学ぶ。
- ・ 社会と健康・疾病との関係を理解し、個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。
- ・ 地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。
- ・ 限られた医療資源の有効活用の視点を踏まえ、保健・医療・福祉・介護の制度の内容を学ぶ。
- ・ 国際保健の重要性について学ぶ。

【具体的な到達目標】

《地域医療への貢献》

- ① 地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ② 医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。
- ③ 地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ④ かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ⑤ 地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。
- ⑥ 災害医療（災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team<DMAT>)、災害派遣精神医療チーム(Disaster Psychiatric Assistance Team<DPAT>)、日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team <JMAT>)、災害拠点病院、トリアージ等)を説明できる。
- ⑦ 地域医療に積極的に参加・貢献する。

《国際医療への貢献》

- ① 患者の文化的背景を尊重し、英語をはじめとした異なる言語に対応することができる。
- ② 地域医療の中での国際化を把握し、価値観の多様性を尊重した医療の実践に配慮することができる。
- ③ 保健、医療に関する国際的課題を理解し、説明できる。
- ④ 日本の医療の特徴を理解し、国際社会への貢献の意義を理解している。
- ⑤ 医療に関わる国際協力の重要性を理解し、仕組みを説明できる。

《集団に対する医療》

- ① 根拠に基づいた医療<EBM>の5つのステップを列挙できる。
- ② Patient, population, problem, intervention (exposure), comparison, outcome <PICO (PECO)>を用いた問題の定式化ができる。
- ③ 研究デザイン（観察研究（記述研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究）、介入研究（臨床研究、ランダム化比較試験）、システマティックレビュー、メタ分析（メタアナリシス）を概説できる。
- ④ データベースや二次文献からのエビデンス、診療ガイドラインを検索することができる。
- ⑤ 得られた情報の批判的吟味ができる。
- ⑥ 診療ガイドラインの種類と使用上の注意を列挙できる。
- ⑦ 診療ガイドラインの推奨の強さについて違いを説明できる。
- ⑧ 人口統計（人口静態と人口動態）、疾病・障害の分類・統計（国際疾病分類(International Classification of Diseases<ICD>)等)を説明できる。
- ⑨ 平均寿命、健康寿命を説明できる。

- ⑩ 罹患率と発生割合の違いを説明できる。
- ⑪ 疫学とその応用（疫学の概念、疫学指標（リスク比、リスク差、オッズ比）とその比較（年齢調整率、標準化死亡率(standardized mortality ratio <SMR>)), バイアス、交絡)を説明できる。
- ⑫ 予防医学（一次、二次、三次予防）と健康保持増進（健康管理の概念・方法、健康診断・診査と事後指導）を概説できる。
- ⑬ 基本概念（国民健康づくり運動、生活習慣病とリスクファクター、健康寿命の延伸と生活の質(quality of life<QOL>)向上、行動変容、健康づくり支援のための環境整備等)を説明できる。
- ⑭ 栄養、食育、食生活を説明できる。
- ⑮ 身体活動、運動を説明できる。
- ⑯ 休養・心の健康（睡眠の質、不眠、ストレス対策、過重労働対策、自殺の予防）を説明できる。
- ⑰ 喫煙（状況、有害性、受動喫煙防止、禁煙支援）、飲酒（状況、有害性、アルコール依存症からの回復支援）を説明できる。
- ⑱ ライフステージに応じた健康管理と環境・生活習慣改善（環境レベル、知識レベル、行動レベルと行動変容）を説明できる。
- ⑲ 健康（健康の定義）、障害と疾病の概念と社会環境（機能障害、活動制限、参加制約、生活の質<QOL>、ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン等）を説明できる。
- ⑳ 社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因(social determinants of health)）を概説できる。
- ㉑ 仕事と健康、環境と適応、生体環境系、病因と保健行動、環境基準と環境影響評価、公害と環境保全が健康と生活に与える影響を概説できる。
- ㉒ 各ライフステージの健康問題（母子保健、学校保健、産業保健、成人・高齢者保健）を説明できる。
- ㉓ スポーツ医学を説明できる。
- ㉔ 地域社会（へき地・離島を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ㉕ 医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援病院、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。
- ㉖ 地域包括ケアシステム の概念を理解し、地域における、保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ㉗ かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ㉘ 地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。

《制度》

- ① 日本における社会保障制度と医療経済（国民医療費の収支と将来予測）を説明できる。
- ② 医療保険、介護保険及び公費医療を説明できる。
- ③ 高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
- ④ 産業保健（労働基準法等の労働関係法規を含む）を概説できる。
- ⑤ 医療の質の確保（病院機能評価、国際標準化機構(International Organization for Standardization <ISO>)、医療の質に関する評価指標、患者満足度、患者説明文書、同意書、同意撤回書、クリニカルパス等）を説明できる。
- ⑥ 医師法、医療法等の医療関連法規を概説できる。
- ⑦ 医療関連法規に定められた医師の義務を列挙できる。
- ⑧ 医療における費用対効果分析を説明できる。
- ⑨ 医療資源と医療サービスの価格形成を説明できる。診療報酬制度を説明でき、同制度に基づいた診療計画を立てることができる。
- ⑩ 医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携を説明できる。
- ⑪ 感染症法・食品衛生法の概要と届出義務を説明できる。
- ⑫ 予防接種の意義と現状を説明できる。
- ⑬ 障害者福祉・精神保健医療福祉の現状と制度を説明できる。

《国際保健》

- ① 世界の保健・医療問題（母子保健、感染症、非感染性疾患(non-communicable diseases <NCD>)、UHC(Universal Health Coverage)、保健システム（医療制度）、保健関連 SDGs (Sustainable Development

Goals)) を概説できる。

- ② 国際保健・医療協力 (国際連合(United Nations <UN>)、世界保健機関(World Health Organization <WHO>)、国際労働機関(International Labour Organization <ILO>)、国連合同エイズ計画(The Joint United Nations Programme on HIV/AIDS <UNAIDS>)、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(The Global Fund to Fight AIDS, Tuberculosis and Malaria <GF>)、GAVI アライアンス(The Global Alliance for Vaccines and Immunization<GAVI>)、国際協力機構(Japan International Cooperation Agency <JICA>)、政府開発援助(Official Development Assistance <ODA>)、非政府組織(Non-Governmental Organization <NGO>)) を列挙し、概説できる。

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	公衆衛生学総論	公衆衛生学の総論について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
2	疫学	疫学とその応用について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
3	児童福祉	児童福祉を中心に福祉について学ぶ	公衆衛生・疫学 (小野)	講義
4	地域保健・ヘルスプロモーション	地域保健・ヘルスプロモーションについて、大分県福祉保健部の講師から学ぶ	公衆衛生・疫学 (藤内)	講義
5	産業保健	産業保健について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
6	衛生行政・老人保健、介護保険	衛生行政・老人保健、介護保険について学ぶ	公衆衛生・疫学 (後藤)	講義
7	母子保健	母子保健について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
8	精神保健	精神保健について概略を学ぶ	公衆衛生疫学 (土山)	講義
9	学校保健	学校保健全般について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
10	歯科保健	歯科保健について歯科医の解説を聞く	公衆衛生・疫学 (戸高)	講義
11	成人保健	成人保健全般について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
12	保健所における危機管理対策	災害医療について、大分県内の保健所所長からその実態を学ぶ	公衆衛生・疫学 (池邊)	講義
13	栄養疫学	栄養疫学について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
14	社会疫学	様々な要因と健康との関係について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
15	社会と医療	貧困と疾病との関係について学ぶ	公衆衛生・疫学 (海老)	講義
16	衛生学総論・各論	衛生学の総論をピロリ菌感染を例にして学ぶ	環境・予防医学 (山岡)	講義
17	健康の概念	健康の概念を学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
18	人口統計	人口統計について最新の動向を学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
19	医療・保険・福祉資源	医療・保険・福祉資源について、グローバルな視点から学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
20	社会保障制度	社会保障制度について概略を学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
21	予防医学・精密化医療	予防医学・精密化医療の概念を具体例を用いて学ぶ	環境・予防医学 (城戸)	講義
22	環境・職業因子による疾患	環境・職業因子による疾患について学ぶ	環境・予防医学 (赤田)	講義
23	生命情報科学	生命情報科学について学ぶ	環境・予防医学 (鈴木)	講義
24	世界の感染症	熱帯にみられる寄生虫感染症を中心に、世界で蔓延する感染症について疫学的な見地から学ぶ	環境・予防医学 (松本)	講義
25	グローバル・ヘルス	グローバル・ヘルスの概念を学ぶ	環境・予防医学 (松本)	講義
26	生命情報学	生命情報学の概論について、コンピューターを駆使した方法論として学ぶ	環境・予防医学 (松本)	講義・実習
27	食品栄養	食事摂取基準を基に栄養学の基礎を学ぶ	環境・予防医学 (赤田)	講義
28	食品衛生	食品衛生などの環境因子について学ぶ	環境・予防医学 (赤田)	講義
29	行政における公衆衛生	行政における公衆衛生について、外部講師を招いて概説してもらう	環境・予防医学 (吉川)	講義

<p>【アクティブラーニングの内容】 レポート課題に関しては、発表の機会を設け、その際に、学生たちが発表についての、評価、議論を行うようにします。できるだけ、授業は受け身ではなく、質疑応答を重視し、さらに実習では、自分でテーマを考える形式とします。</p>	<p>【その他の工夫】 グローバル化の中で、英語で考えることは重要であり、特に環境・予防医学の講義では、英語を取り入れた授業を行います。</p>
<p>【時間外学修の内容と時間の目安】 レポート課題を出しますが、通常に行えば10時間以上は要する内容となります。</p>	
<p>【教科書】 特になし</p>	
<p>【参考書】 1回目の授業の時に説明します。</p>	
<p>【成績評価方法及び評価の割合】 受講状況・レポート課題：30%、期末試験：70%を基準に総合して評価する。 欠席が40%を超える場合、期末試験の受験資格を与えません。詳細は1回目の授業の時に話します。 小テスト：平均60点以上が必須。課題プリント：2枚以上の提出が不可欠。</p>	
<p>【注意事項】</p>	
<p>【備考】</p>	
<p>教員の実務経験の有無</p>	<p><input type="radio"/> 医師，産業医，社会医学系専門医・指導医，日本公衆衛生学会認定専門家</p>
<p>教員以外で指導に関わる実務経験の有無</p>	<p><input type="radio"/> 医師，ケースワーカー，歯科医師，管理栄養士</p>
<p>実務経験をいかした教育内容</p>	<p>教員は、実務経験を生かして公衆衛生に関する研究や保健指導等の活動を行っている。そこで、教員からは、公衆衛生を学ぶ上で必要な疫学や保健について教授し、知識・技術の習得を図る。教員以外の指導にかかわる実務経験者は、それぞれ公衆衛生活動の諸分野において、第一線で活躍している講師であり、これらの公衆衛生活動の実践例を教授する。</p>
<p>授業形式</p>	<p>対面授業</p>